活動報告

「子どもが活きる」板書をめざして（Ⅱ）

児　玉　元　治

For Demonstrations on the Blackboard to “Help Students Learn More Actively”

Genji KODAMA

【要　　旨】
今、学力向上が叫ばれ、特に、授業の質の改善が強く求められている。その改善の手段として板書の在り方が見直されている。そこで、授業のスタートである実習生の板書を取り上げ学習指導案と関連づけ振り返りを中心に考察した。初めての取組みで内容は浅いが、板書が授業を左右するとともにふりかえりの大切さを教職に就いた際に改めて気づいてほしいと願っている。

【キーワード】
授業、板書、ふりかえり

1．はじめに

実習生はこれまでに模擬授業や現場での授業を経験している。

実習の反省によると子どもとのかかわり、授業の難しさ等があるが、板書についての反省はごく一部である。実習終了後、板書に対する感想は、

①どの高さに書いたらよいか
②字の大きさはどれくらいか
③行と行の幅はどのくらいか
④全体のバランスがむつかしい
⑤チョークの色をどのように工夫するか
⑥黒板に向かってしゃべってしまう
⑦文字を書くのが下手なので手が震える
⑧筆順に自信がなく、子どもから指摘されそうで不安である。
⑨誤字を書くかもしれないという不安がある。
⑩板書は全部書いた方がいいのか、書いたものをはった方がいいのか
⑪板書をしているときは、黙ってした方がいいのか、話しながらした方がいいのか
⑫板書をノートに書かせる時間はどの程度与えたらよいか
⑬チョークの持ち方はどうすればよいか

であった。

また、⑧、⑨に関しては子どもや保護者から指摘をされた。⑪ではいつも黒板に向かって授業をしていると言われたことがある。

２．課題

学生の感想を分析してみると、
○　誤字・脱字・筆順に関すること
○　全体のバランスに関すること
○　資料（課題等）に関すること
○　板書をしているときの留意点
○　板書とノートに関すること
となる。

⑧や⑨の筆順・誤字に関しては、教育実習指導の講義で指導している。小学校１年生～６年生までの新出漢字を筆順どおりに書かせている。学生は自分の書いていた筆順などの間違いに気づく。また、練習では正確に書けるが、板書になると一度習得したことはなかなか直せないのが現状である。

⑩に関しては、書いた資料等をはっていけば時間の節約にはなる。多少時間はかかるけれど、指導者が丁寧に正しくことが大切であると考える。子どもは指導者の書く姿や筆順等を見て育つからである。そのためには、指導者は速く、丁寧に、正しく書く練習を黒板ですることが求められる。

次に、⑬は実物を使って指導している。どうしても鉛筆の持ち方になるが、それでは書きにくいし、速く書けないということを実感させながら定着するよう努力させている。

さて、学生の感想では、授業の本質に関するものが見られなかった。学生にそこまで期待するのは無理だろう。

そこで、学生には、
①考えることや作業することが位置付けられているか
②学習指導案が活かされているか
③黒板に集中できる板書であったか
④事前に板書計画を作成したか
⑤１時間の流れが分かるか
⑥板書のスピードはどうであったか
⑦子どもの考えが位置付けられているか
・子どもが書いたもの
・子どもが発言したことを書く
⑧誤字・脱字はないか
⑨文字は正しく、丁寧か
⑩書く早さは適切か
⑪文字の大きさは適切か
⑫チョークの色を工夫したか
等を指示し、いくつか目的を持たせて実践させた。

３．実践

第１学年～第６学年までそれぞれ実践（実習の時間の活用）した。学生にとって授業の経験は非常に少ないのでよい板書とまではとうてい進まない。この機会をとらえ、少しでも板書に気を付けて授業することを期待しながら実践をまとめてみた。

(1)　実践１

第１学年　算数科学習指導案

(1) **題　目**　３つの数の計算の仕方を考えよう
(2) **主　眼**　３つの数を、お話の移り変わりに着目したり、ブロック操作をしたりすることによって１つの式に表し、その計算の仕方を考えることができる。
(3) **展　開**

時間	学習活動	指導上の留意点
	１．３枚の絵を見てそれぞれ　の場面を押さえる。	○３枚の絵を提示しお話の内容を理解させる。 〈問題文〉 ①はじめに　②次に　③最後に ４ひきのっています。　２ひきおりました。　５ひきのってきました。 ○２枚目、３枚目の「のってきました。」「おりました。」という言葉を押さえ、加法なのか減法なのか考えさせる。
	２．お話の場面を数図ブロックに置き換えて、立式する。	○２人組になり、ウサギをブロックに置き換えて操作させる。 〈予想される児童の考え〉 ア　イ　ウ　エ ○数名の児童を指名し、ブロック操作の仕方を発表させる。（２～３人） ○聴いている児童には、自分の考えがどの操作方法と似ているのかを位置づけさせるようにする。 ○ブロック操作の仕方を十分に話し合った後、立式にうつる。（４－２＋５） （しき）４－２＋５＝７　（こたえ）７ひき
	３つの数の計算の仕方を考えよう	
	３．３つの数の計算の仕方を考える	○４－２＋５の３つの数の計算の順序（計算の仕方）を２人組で考えさせる。 ○計算の仕方を全体で話し合う。 ○３枚の絵（３つの場面）を振り返り、ウサギの数がどのように変化しているかを押さえ、式と場面をつないで考えさせるようにする。 ４－２＋５ ２　＋５＝７
	４．本時のまとめをする。	○３つの数の計算（－．＋）は、前から順番に計算すればよいことを押さえ、次時につなげる。

⑨　正しく丁寧
　あまりきれいではない
⑩　速さ
　遅かった
⑪　大きさ
　低学年だったので大きめに書いた
⑫　チョークの色
　三色使った

【学生の感想】

①　位置付け
　教科書の文や絵を拡大コピーし示した。
②　学習指導案
　〈予想される児童の考え〉の部分で示した以外の考えが出てきた場面もあったが展開は学習指導案通りに行うことができた。
③　集中
　絵の提示で集中していたと思う。
④　板書計画
　作成はしていないが模擬授業をした。
⑤　１時間の流れ
　左から順に板書した。
⑥　スピード
　遅かった
⑦　考えの位置付け
　子どもの書いたもの、発言したこと両方
⑧　誤字・脱字
　なかった

【分析】

『絵と式がうまく結びついた例』
①　について　どんな活動をするのか黒板にきちんと位置付けられている。
③　絵をよく見ると違いや途中の経過がよく分かるようになっている。興味関心意欲をもつことができた。
⑦　学習指導案では予想される子どもの考えがあるが板書にはその違いが明確ではない。考えの結果は見えるが途中の過程が見えると違いが明確になると考えられる。
⑧　⑨丁寧に正しく書かれている。
⑪　低学年らしく文字を大きく書いており全員の子どもによく分かったようである。
⑫　課題の黒 式の白 ポイントの赤をかき分けている。

【今後】

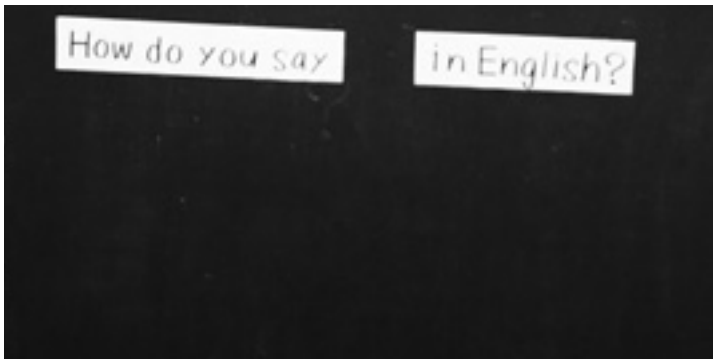
○板書計画を作成し、１時間の流れが分かる板書にすることである。
○板書と掲示物の関連を持たせるともっと効果的である。

(2)　実践２

第２学年　英語科学習指導案

(1)　題目 Asking about a stationary	(2)　主眼 文房具の名前を楽しくおぼえ、How do you say…in English?を使って友だちに問いかけたり、JLT・ALT に質問することができる。
(3)　準備物 文房具一式　CD プレイヤー　question box(箱)	

時間	学習活動	JLT	ALT	指導上の留意点
10分	1 あいさつをする。 ・ABC Song1,ABC Song を歌う。	・英語であいさつする Good afternoon! Let's sing a song!	・英語であいさつする。 Hello！	・元気にあいさつをして明るい雰囲気ではじめる。
20分	2 question box の中身が何か当てて、英語で何と言うか尋ねて発表する。 〈How do you say…in English?〉	・手本を示してHow do you say…in English?を引き出す。	・手本を示し、英語の名前を教える。	・はじめに、JLT・ALT が手本を示す。英語で何と言ったらいいかわからないふりをし、どうしたらわかるか問いかける。 ・発表し終えたら Good Job!と言って子どもを褒める。真似している子がいれば言いやすいように気分をのせてあげる。
10分	3 JLT と ALT のスキットを見てとなりの人と会話をする。 〈Excuse me〉 eraser　glue ruler　scissors pencil box　notebook writing pad　textbook	・Excuse me をつけて How do you say で問うスキットを見せる。	・Excuse me を付け加えたスキットをみせる。 ・文房具の英語名を発音する。	・自分の持っている文房具をもってとなりの人に尋ねさせる。 消しゴム・のり・定規・はさみ・筆箱。できればノート、下敷き、教科書。 ・言えない、困っている様子の子には JLT・ALT が助言する。
5分	4 How do you say…in English?を使って知りたいものを聞く。	・聞きたいことがある子をあて、How do you say…in English?を使って ALT に尋ねさせる。	・聞かれたことを教える。	・時間を見て数人の子に発表させる。 ・発言した子を Good job!と言って褒める。
	・終わりのあいさつをする。 Thank you!You too!	・終わりのあいさつをする。 Thank You! Have a nice day!	・終わりのあいさつをする。 Thank You! Have a nice day!	・How do you say…in English?をおぼえて、お話しするとき使ってみてと伝え、終わりのあいさつをする。



⑦　発言重視の活動だったので、発言を黒板に書くことができなかった。

【分析】

①　本年度から英語活動の授業がはじまり、指導法に苦労している。授業者は英語活動をすでに取り入れている小学校に何度も足を運び授業を参観したり、教職員に話を聞いたりしていたので問いかけがスムーズに進んだ。子どもの活動が教師の問いかけにうまく反応したために板書が気にはならなかった。教師の問いかけが頭の中で構築されており問いかけそのものが板書だと考えてよいと考えられる。

【学生の感想】

①　コミュニケーション活動を主にしていたので板書は How do you say in English?のフレーズのみになった。

②　児童の実態より少し難しいフレーズを用いて授業展開をしてしまった。

③　前時に用いたフレーズカードを黒板に貼っただけなので、英語にしたい物のイラストなどを使って（フレーズの間にいれたり）視覚的にも工夫すべきだった。

【今後】

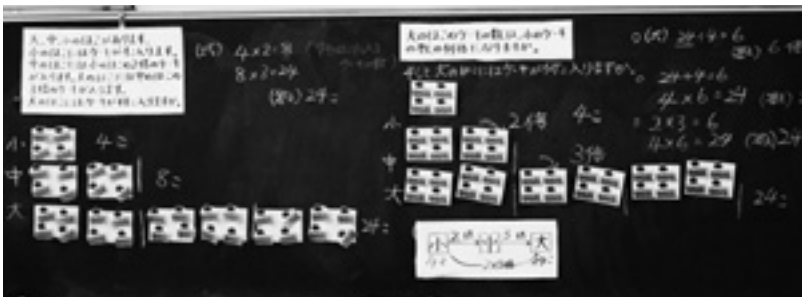
○指導者がスムーズに発音等ができればよいが、そうでない場合は、もっと丁寧な板書計画が求められる。視覚をとおした絵や図、言葉などが授業を効果的に進めるきっかけづくりになると期待される。

(3) 実践３

第３学年　算数科学習指導案

(1) **題　目**　何倍か求めよう
(2) **主　眼**　□のａ倍のｂ倍を求める問題を、いろいろな考え方によって、解決することができる。
(3) **準備物**　テープ図、関係図
(4) **展　開**

時間	学習活動	指導上の留意点
25分	１、題意を把握し立式する。	大、中、小の箱があります。 小の箱にはケーキが４こ入ります。 中の箱には小の箱の２倍のケーキが入ります。 大の箱には中の箱の３倍のケーキが入ります。 大の箱にはケーキが何こ入りますか。 ○題意をはっきりとつかめるように問題の条件や求めることを、みんなで確認する。 いろいろな考え方で解きましょう 〈子どもの予想〉 (1)　事柄に沿って順に考えて解く ４×２＝８ ８×３＝24　　24こ (2)　何倍に着目してまとめて考えを解く ２×３＝６ ４×６＝24　　24こ (3)　題意を理解できていないで解く ２＋３＝５ ４×５＝20　　20こ ○机間巡視をし、子どもが考えている解き方を認める。 ○説明をしながら発表させ、(1)(2)(3)について確認をする。 ○(3)と(1)を比較してその誤りに気づかせる。 ○(2)の考えがでない場合、「大の箱のケーキの数は小のケーキの数の何倍になっているか」と投げかけて考えさせる。 ○テープ図や関係図を用いて、さらに理解を深めさせる。
15分	２、さらに理解を深める。	
５分	３、本時のまとめ	○１つの問題でも２通りの考え方で答えをもとめることができることを確認し、次時は(2)の考え方で問題を解くことを伝える。



⑪　文章にチョークで線を引くと問題の意味が把握できたのではないかと思う。

【分析】

○左の部分は大のはこにはいるケーキの数はよく分かる。右の板書の中の課題の下に「そして大のはこにはケーキが何個入りますか」と位置づけられている。左の板書ですでに分かったことを再度板書したことの意味が理解できない。

○子どもの考えを位置づけるならば、「大のはこのケーキの数は小のケーキの数の何倍になるか」の子どもの考えを位置づけることが大切である。

○字は丁寧で正確である。

○ケーキを４のまとまりにしたのは倍を考えるときには効果的である。

【今後】

○子どもの考えを板書に位置づける時と内容を考えることが大切である。

【学生の感想】

①　問題の文や課題は位置づけられている。
②　学習指導案がいかされた授業ができた。
③　ケーキを本物のようにイラストを用いたので黒板に集中したと思う。
④　事前に板書計画を作成した。
⑤　板書を見れば１時間の流れが分かる。
⑥　計画を作成していた安心して書くことができた。
⑦　子どもの考えが右側に位置づけられた。発表した考えを教員が板書した。
⑧　誤字・脱字はない。
⑨　文字はていねいに書いた。
⑩　⑪ともに適切だと思う。

(4)　実践４

第４学年　国語科学習指導案

(1)　**題材名**　「星とたんぽぽ」
(2)　**主　眼**　詩の表現を、言葉やフレーズの意味に着目して楽しみ、理解することができる。
(3)　**展　開**

時間	学習活動	指導上の留意点
５分	１．詩を全員で一度声に出して読む。	・「星とたんぽぽ」の詩を一度声に出して読むことで、どんな詩なのか。またどんなことが書かれているのか。に目を通し、理解できるようにする。 きっき気になる言葉やフレーズはどこ
15分	２．詩の前半の文や言葉の意味について考える。	１行目　お空のそこってどこだろう？ 予想される答え ・空の上のほう・下のほう　など。 ２行目　海の小石ってなんだろう？ そのって何を指すのかな？ 予想される答え ・小さな石・海の底の石・軽い石 ・その＝小石・お空　など。 ３行目　何が沈んでいるのかな？ 予想される答え ・海の小石・お空のそこ ４行目 ５・６行目　「見えぬけれどもあるんだよ」 見えぬ＝見えないという意味であることを押さえて、ここではこの文にふれずに次に進む。
15分	３．詩の後半の文や言葉の意味について考える。	７行目　すがれたってどういうこと？ どんなイメージがするだろう？ 予想される答え ・すたれた感じ・枯れている感じ ８行目 ９行目　何が隠れているのかな？ 予想される答え ・たんぽぽ・たんぽぽの根 10行目　そのって何を指すのかな？ 11・12行目 ・５・６行目とも関連して考える。 ・どうして２回繰り返しているのかな？
10分	４.「見えぬけれどもあるんだよ。」に込められた筆者の思いを考える。	予想される答え ・大切なところだから。 ・筆者が一番言いたいことだから。 ・意味があるから。 ⇩ 筆者が伝えたい思い、 「見えぬけれどもあるんだよ」に 込められた思いとはなんだろう？

【学生の感想】

①　特に位置付けられていない。
②　できるだけ学習指導案に即したつもりである。
③　黒板はメモ程度となっており集中して見るものではない。
④　計画したがあまり役に立たなかった。
⑤　ひとつのことにこだわりすぎて授業が進んでないので書いていない。
⑫　板書の際、どのくらいの力を入れて書いたらいいのか迷うことがある。

【分析】

①　教材文は提示されているが課題は見あたらない。学習指導案では位置付けている。
⑤　１行目の「お空のそこってどこだろう」にこだわりすぎて次にすすめなかった。しかし、板書に位置付けられているとおり子どもが想像しながら、思いをふくらませ、くいついて来たのにはびっくりした。

【今後】

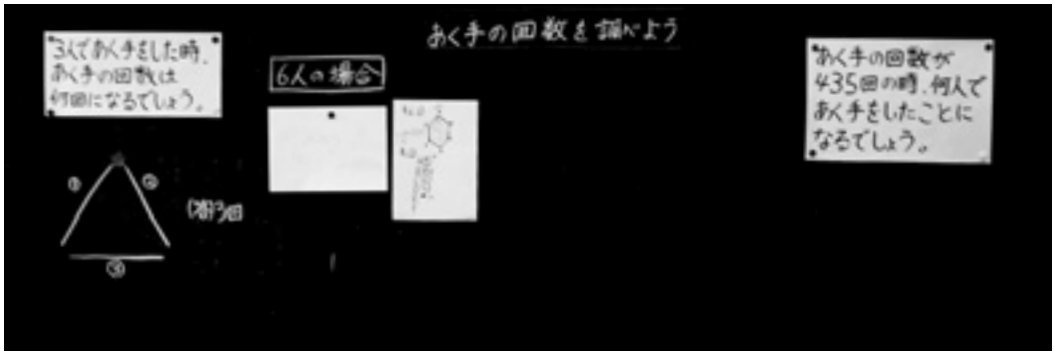
○学習指導案は作成したが、授業以前にどうしてもこだわりたいことが気になり、そこからどのようにして抜け出すか考えがきちんとまとまらなかったと考えられる。
○板書の基本的なことをきちんと指導すべきである。

(5) 実践５

第５学年　算数科学習指導案

(1) **題　目**　握手の回数を調べよう
(2) **主　眼**　握手の回数を様々な方法で求め、その考え方やきまりについて、全員で共有することができる。
(3) **展　開**

学習活動	指導上の留意点
１．握手の回数の数え方を確認する（10分）	全員が全員と握手するとき、握手の回数が何回になるかを考えよう。 ・授業者と学級委員２人の合計３人で握手をしたときの回数をみんなで数える。（実演する） ・A−B と B−A とでは同じ意味なので数えないようにすることを指導する。 ・３人の場合の考え方（図）を黒板で考える。
２．６人での握手の回数について考える（10分）	・６人の場合はどうなるかをグループで考える。 ・グループで答えの出し方を２通り以上考えるようにする。 答えを導き出すにはどんな考え方があるだろうか
3．６人での握手の回数の数え方について発表する（15分）	・各グループの考え方を画用紙に書き、発表させる。 ・色々な考え方・方法を取り上げる。
４．握手の回数から人数を導き出す（10分）	握手の回数から人数を考えてみよう ・握手の回数が435回になる時、何人の人がいたかを考える。 ・電卓を使い、答えを探す。 ・答えは30人になる。



【学生の感想】

①　課題は位置付けられている

③　児童の考えを共有できるように、画用紙を貼るスペースが十分とれていた。

⑦　子どもの考えを位置付けられるようにしていたが、子どもからでた考えを一枚の用紙のなかにかきこんだ。

⑧　「数」という字の筆順を間違えた。

⑫　チョークの色は分かるが、鉛筆のような持ち方になる。

【分析】

⑦　６人の場合一人ひとりの考えが位置付けられていない。それぞれのこどもの考えの相違点が見えにくい。子どもはよい考えを発表している。

【今後】

○子どもにワークシートを与えて、まず自分の考えを持たせるべきである。それからグループで討議させる。この際、グループでの考えはまとまるが、個の考えが消えてしまうことがある。指導者はこの消された考えを大切にし、どのような過程を経て一つになったのか、把握しておく必要がある。
グループでのよさはあるが、あくまでも個が生きるグループでなくてはならない。

○子どもの考えを短冊黒板に書かせることも考えられる。

○板書を消す際の基本的なことを指導する必要がある。

(6)　実践６

第６学年　国語科学習指導案

(1)　題　目　ブックトークの構成の見直しをしよう。
(2)　主　眼　ブックトークの構成メモの改善点を、発表を聞き合い、感想を述べ合うことによって、見つけて工夫を加えることができる。
(3)　展　開

時間	学習活動	指導上の留意点
10	1．前時を振り返る。	○前時で作成した構成メモの内容を、グループでもう一度見直す。 ○発表の際にどの部分を担当するのかをグループで確認・見直しをする。 ○リハーサルや本番のことも見通して、大きな声ではっきりと話すことを意識させる。
20	2．構成の内容を発表し、意見を出し合う。	構成メモの発表を聞いて、意見を出し合おう ○構成メモの内容を発表し、他のグループは良かったところやもう少し工夫が必要なところなど、気付いたことを発表する。 ○他のグループからの意見については、ワークシートにメモを取り、後から見直せるようにしておく。 〈予想される児童の反応〉 ・声が大きくてよかった。 ・クイズなどがあって面白い。 ・本が面白そう。 ・声が小さかった。 ・話す速さが速すぎる。 ・あらすじばかりで面白くない。 ・本の順番を入れ替えた方が良い。
10	3．構成メモの内容を見直す。	意見の交換をもとに自分たちの発表をさらに良いものにしよう。 ○他のグループからの意見を参考にし、自分たちのブックトークの内容の良い点、改善点を再度話し合う。 ○話し合いをもとに、話し方や実際のブックトークなどの練習の時間に充ててもよい。 ○他のグループからの意見を取り入れ、どのような工夫を加えることにしたのかをグループごとに発表させ、次時のリハーサルへとつなげる。
5	4．付け加えた工夫をグループごとに発表する。	

であり、ストーリーがよく理解できていたので授業も予想どおりに進んだのだと考える。

④　板書計画を見ながら授業したことはすばらしいことである。板書計画の中に板書する順序、色チョークの色、板書する文字の位置などを書いていた。

【学生の感想】

①　位置付けられている。
②　学習指導案どおりに授業が進んだ。
③　ただ書いたというだけで工夫がなされていない。
④　作成した板書計画を見ながら授業をした。
⑦　子どもから出された考え等は板書した。
⑩　できるだけゆっくり書くように意識した
⑪　文字の大きさが適切であったためにうまく黒板におさまってよかった。

【分析】

①　丁寧な文字で課題等を書いており非常に見やすい板書になっている。
②　学習指導案で本日の学習内容及び指導内容が明確
⑦　子どもの考えをよく受け止め、認めており、そのことをうまく板書にまとめていた。

【今後】

○文字をゆっくり書くことを意識したとある。であれば、課題等は書いたものを貼るのではなく手で書いても良かったのではないか。子どもとって「書いたものを貼るのがいいのか」「手書きがいいのか」教師の都合よりも、子どもにとってどうなのかもう一度考え直すことが必要だと考える。
○授業する場合は、子どもに身に付けさせたいこと、そのための具体的な方策、身に付いたかどうかの評価が望まれる。

4．成果

○学校に勤務している教員の板書とかなり似かよった部分もある。今回は学生の板書に対する思いが多少理解することができた。彼らなりに努力している姿をとらえることもできた。我々が指導する内容が明確になったことが大きな成果である。

5．まとめ（課題）

○板書は非常に難しいという現実が学生の姿をみてよく分かった。授業のことをいろいろと論議する前に、もう一度原点にかえりたい。実際に学生自身が授業する授業場面での板書をとおして、「子どもが活きる」板書の役割、分かりやすい板書、板書の技術的な内容、書字力等学生に対する講義や演習の時間を活用して身に付けさせ、教師として役立つことを期待している。

○「板書に関する講座」を設置し、必修として受講させることが必要である。

○「国語（書写を含む）での書写」、「指導法演習（書写）」と関連付けて指導することが必要である。

6．参考文献

・初等教育科専攻科初等教育専攻　学生実習における学習指導案及び板書
・板書のしかた・ノート指導
（加藤辰雄著　学陽書房　2010年）
・板書・ノート指導
（岩瀬直樹・川村卓正著　ナツメ社　2010年）